



2024

国語

注 意

- 試験時間は、15:20～16:10の**50分**です。
- 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
- 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
- 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
- 問題についての質問はうけつけません。
- 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校三年生の西脇融は、高校生活最後のイベントとして「歩行祭」に参加していた。以下の文章は、融が親友の忍と共に「一緒に走り切ること」と「上位でゴールすること」を約束して走っている場面である。

ヤバイな。

心のどこかで A する。

この、中途半端な傾斜というのは、疲れるし転び易い。せめて傾斜が逆だったらよかったのだが、ざっと見た限りでは、左側に傾いた道が続いている。一步踏み出すごとに、左足に嫌な違和感が積み重なっていくようだ。なるべく気にしないようにしていたが、途中から違和感は鈍い痛みに変わった。

まずい。今朝起きた時に感じた痛みがぶり返している。

認めたくはなかったが、どうやらそう判断するしかなさそうだった。

① ついに来たか。

そう思いながらも、痛みを気にしないようにして時間を稼ぐ。

それでも、少しずつ遅れ出した。徐々に忍の背中と距離が開いていく。

忍が、かすかに振り返る仕草をした。それに声を掛けようとしたその瞬間だ。がくと身体が傾いた。同時に、頭の中に閃光が射したような感じがした。

痛みというよりも、何かが切れたような衝撃を足に感じる。

「やったっ」

思わず叫んでいた。

「融？」

忍の声がして、次の瞬間、乾いた道の上に転がっていた。

② やっちまった。もう一度、頭の中で叫ぶ。

掌に当たる小石の痛みのほうが生々しかった。慌てて手を上げると、パラパラと砂が落ちる。

「おい、大丈夫か」

忍が駆け寄ってきた。

瞬きをして、道にうずくまったまま、足に意識を集中する。

痛みは？ どきどきした。

膝をやられたのか？

しかし、特に痛みはない。安堵するのと同時に、ちよつと気味が悪くなった。

いや、そんなはずはない。さっき、何か決定的な衝撃があったのだ。

「膝かよ？」

忍がしやがみこんで、彼の左足を見る。

「いや、膝じゃないな」

融は、恐る恐る起き上がろうとしたが、足首に電気ショックのような痛みを感じて悲鳴を上げ、座り込んだ。

違う。足首だ。反射的に膝をかばって、思いつき足を挫いたのだ。

「おい、あとが来るぞ。ちよつと避けよう」

後ろから走ってくる生徒に気付き、二人はごそごそと道の脇にある草むらに移動した。融も、じんじんする足に力を掛けないようにして、右足を軸に身体を回し、草の中に座り込む。

「ひでー。ついにやっちまったよ」

融は溜息混じりに叫んだ。

「見せてみる」

「捻挫したらしい」

靴を脱いで草の上に両足を伸ばす。まっすぐ足を伸ばすと痛くない。ただ、足首を回そうとすると、痺れるような凄まじい痛みが走る。完全に捻挫だ。

「やばいなあ。マジで救護バス行きかもしれない」

そう口に出すと、このアクシデントの意味が **B** 胸に迫った。

ここで終わりか。ここで。そんな。ほんの一分前まで、忍と一緒に、あとはゴールするだけだと **X** 高をくくっていたのに。

一瞬、目の前が真っ暗になる。

うわ。そんな終わり方ってあんまりだ。冗談じゃない、ここまで来て。

一年の頃、バスに乗りたくない泣いていた上級生の姿が目につかぶ。自分とは無縁の、不運な男だと思っていたのに、ひよっとしてひよつとして、今俺はあれと同じ境遇に陥ってしまったってわけか。

頭の中で、ぐわんぐわんと絶望の鐘が鳴っている。

その一方で、宥めるような別の声も聞こえてくる。

あと残り僅かだからいいじゃないか。団体歩行は全部歩いたし、ほとんど消化したじゃないか。もう充分だろ。忍に迷惑掛けるなよ。

③ しかし、鐘は止まない。おい、冗談じゃない。ゴールできなかったら、歩行祭に参加したなんて言えるかよ。終わりよければ全てよしって言うだろ。

頭の中でいろんな方向から聞こえてくる声にかぶさるように、あくまでも **Y** 淡々とした忍の声が聞こえてきた。

「冷湿布が残ってるから、貼ってやる」

C リュックを探る音がする。

彼の冷静な声を聞くと、いつもホッとするのだ。

「捻挫だったら、暫く動かさなきゃ、とりあえず歩けるようになると思うけど」

「バスかなー」

「どうしても駄目だったら、乗せてやる。ここまで時間稼いだから、まだバスが来るまで当分時間あるだろ」

忍は草の上で胡座をかき、湿布を剥がした。薬の匂いがツンと鼻をつく。

その姿を見ていると、動揺していた心がようやく落ち着いてくる。

そうだ。バスが来るまで、まだ二時間はあるはず。終ったわけじゃない。

思わずほうつと溜息が漏れ、上半身が震えた。

「残り何キロくらいだ？」

「十キロちよつとだと思おう」

「やれやれ。結構あるな」

忍から湿布を受け取り、そうつと足首に貼った。ひやつとするのが心地よかったが、同時にかなり患部が熱を持っていることにも気付いた。この先、腫れると確信した。

昨日から、切ったり、貼ったり、こんなことばっかりしてるな。

「一キロを十回歩くと思えばいいんだ」

忍がぼそつと呟いた。

「一キロ十回か。半分に負けてくれないかな」

沈黙が降りる。

風の音がした。頬に当たって冷たい。

なんとなく、気まずい緊張があった。二人とも、同じことを考えているのだ。

④ 俺から言わなくちゃ。

融はそう思っていた。

忍は頼めばそばにいてくれるだろうし、そうしたいと思ってくれているかもしれない。だけど、ここは俺から言わなくちゃ。そう頭では分かっているのに、なかなか言い出せない。

俺から言わなくちゃ。忍に言わせたら、すつごく後悔するぞ。

気まずさはどんどん高まって行って、互いに緊張しているのが分かる。

「——おまえさ、行っていいぞ」

融はやつとそう口にする、小さく咳払いをした。

「行っていいぞってのは？」

忍はムツとしたような声を返す。

「だって、約束しただろ。俺が途中で駄目になったら、先に行くって」

「まだ駄目になったと決まったわけじゃないだろ。別に記録目指してるわけじゃないし」

「でもさ。俺、休んでも本当に歩けるかどうか分らないぞ。バスが来てからじゃ遅いだろ」
話し始めると、緊張がほぐれた。何であれ、懸案事項は口にしたほうが楽なものだ。

「何やってんだよー」

「走れよー」

知り合いの声が頭から降ってきて、移動していく。

「休憩中だよ」

そう言い返すと、「ばーか」と笑い声が遠ざかっていった。

この分じゃ、どんどん抜かされちまうな。せつかくいい線いってたのに。

⑤ ちよつと悔しい気がした。

いや、とつても悔しい。一瞬の気の緩みがこんなさまになるとは。

むくむくと身体の中に無念さが膨らんでくる。悔しい。凄く悔しい。馬鹿め。ほんと、注意一秒、怪我一生、だ。

自分あまりにもふがいなくて、小さく口の中で舌打ちした。

陽射しが力を増していく。汗が乾き、髪の毛が熱を帯びてきた。

⑥ とりあえず、少し様子を見よう。置いてくかどうかはそれから決めるさ」

忍がスポーツドリンクを飲みながら、この話題はこれでおしまい、という口調で言った。

（恩田陸『夜のピクニック』による）

（注1）懸案事項：問題になり、まだ解決していないことから。

問一 波線部 X・Y の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

X 高をくくって

- ア 予想をして
イ 物事を区別して
ウ 軽く考えて
エ 目標にして
オ 慎重しんちょうに行動して

Y 淡々とした

- ア 物事が何事もなく過ぎる
イ 途切とぎれることがない
ウ 静かにひっそりしている
エ あつさりとしてこだわりがない
オ 野心的に機会をうかがう

問二 空欄 A～C に入る言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア ずしりと イ がっくりと ウ うんざりと エ がんがんと
オ ふわりと カ ひやりと キ ぼんやりと ク ごそごそと

問三 傍線部①「ついに来たか」とありますが、これはどういうことですか。二十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部②「やっちゃまった」とありますが、このときの融の気持ちの説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ただでさえ忍から遅れていくことに危機感を覚えていたのに、その上転倒してしまった自分を腹立たしく思っている。
イ これまで忍には足の痛みを隠していたが、転倒したことにより知られてしまうのではないかという恐れを抱いている。
ウ 忍のために無理して出場した結果やはり転倒してしまい、そこまでして約束にこだわった自分の判断を後悔している。
エ もともと上位でゴールすることを目標にしていたが、入賞できなくなってしまったと確信して投げやりになっている。
オ 転倒した際に受けた感覚から、どこかにけがをして自分がもう走れなくなってしまったと直感しひどく動揺している。

問五 傍線部③「しかし、鐘は止まない」とありますが、

(i) この部分に使われている表現技法としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 体言止め イ 比喩 ウ 反復法 エ 倒置法 オ 対句法

(ii) このときの融の気持ちとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 忍とここで別れなければならなくなったことへの罪悪感から、どのような言葉をかければ良いか分からず途方に暮れている。
イ 忍との差を縮めるため必死で追いかけたが、突然のけがで走ることが出来なくなってしまい無力感に打ちひしがれている。
ウ 忍に格好良いところを見せたいという願望はあるが、同時にこれ以上の迷惑はかけられないという葛藤も抱えている。
エ これ以上無理に走らなくてもいいと自分を納得させようとする一方で、心の奥ではまだゴールを諦めることができない。
オ 無理をして参加したせいで忍を困らせている現状に嫌気がさし、一瞬でも気を抜いてしまった自分に腹を立てている。

問六 傍線部④「俺から言わなくちゃ」とありますが、

(i) 融はどのようなことを言おうとしているのですか。三十字以内で説明しなさい。

(ii) なぜ「俺から言わなくちゃ」と思ったのですか。五十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑤「ちょっと悔しい気がした。いや、とつても悔しい」とありますが、なぜ「いや、とつても」と言い直しているのですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 最初は足の状態が悪くバスに乗るつもりでいたが、体が回復するとともに上位を狙いたいという欲が生まれてきたため。
- イ 最初は忍と走れるだけで十分と考えていたが、そんな友情よりも上位でゴールすることに価値があると思いはじめたため。
- ウ 最初は走れなくなった現実を軽く受け流そうとしたが、ゴールまで走り切りたいという自分の強い思いに気付いたため。
- エ 最初は忍に行つていいと伝えることで頭がいつぱいだったが、こんな状況を作った自分や忍への怒りが大きくなったため。
- オ 最初は自分自身がどう感じているか冷静に分析していたが、知り合いに次々と抜かされたことであせりが増してきたため。

問八 傍線部⑥「とりあえず、少し様子を見よう。置いてくかどうかはそれから決めるさ」とありますが、このときの忍はどのような気持ちだと考えられますか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 二人での完走を諦めたくないと思いつつも、融の悔しい気持ちを考えてあせらせることを言わないよう気をつかっている。
- イ 融を置いて自分だけでゴールを目指したいとかすかに思いつつも、一緒に走ってきたため見捨てることもできないでいる。
- ウ 救助がなかなか来ずどうしようもない事態に対して怒りつつも、融にはよけいな心配をさせまいと平静をよそおっている。
- エ 融のせいで記録を目指せなくなったことに立ちを覚えつつも、今はけがの治療が最優先だと自分に言い聞かせている。
- オ 明らかに走れる様子ではないのに意地を張っている融にあきれつつも、なんとか協力して完走したいと希望をもっている。

問九 本文に使われている表現の説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 短い文が多く用いられることで、場面ごとの出来事が分かりやすくなり心の動きにも臨場感が感じられる。
- イ 会話の中で事実のみが述べられることで、時間の流れと人物の心情の変化を客観的に読み取ることができる。
- ウ 擬態語が多く使われることで、融と忍の間に流れる緊迫した空気や周囲の反応が印象深く読者に伝わる。
- エ 融が同じ言葉は何度も繰り返すことで、がんこな性格が表現され今後は忍と関係が悪くなることが予感される。
- オ せりふ以外の文章でも融の思いが描かれることで、融の人物や場面ごとの心情がより分かりやすくなっている。

次の文章は、同一のテーマについて書かれた一連のコラムのうち「コラム1」と「コラム6」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

コラム1 今日も実験してみよう！——ミルククラウンと水たまりに石

忘れもしない中学校一年生の夏、夏休みの自由研究のネタを考えるのに頭を悩ませていたとき、テレビで「ミルククラウン（のたぶん高速撮影）」を見ました。

一滴の牛乳が水面（牛乳面）に落ちると周辺に王冠のようなしづきが上がるのですが、高速度カメラで撮影すると冠形のしづきがきれいに見えます。「整然としていてきれいだな」と思うと同時に「このしづきは落ちてきた一滴の牛乳がはね返ったものなのか、それとも下にあった牛乳が飛び散ったものなのか？」ふとそんな疑問がわきました。「これって、ただの水にインクを一滴落としたらわかるんじゃないか」と思い、小さな小さなお皿とスポイトとインクと紙一枚を用意し、試してみました。実際にやってみると、インクを水面に落とすと周りに敷いた紙は濡れますが青色は付きません。逆に、インクのなかに水を一滴たらすと紙は青くなるので、なるほど「お皿の中の液体が飛び散ってるんだ」ということがわかりました。

この実験、なかなかよくできていると今でも思うのです。簡単だし。

X 意気揚々と二学期を迎え理科の時間に発表しました。田村少年、さぞかし自慢げだったことでしょう。I、教室から声が上がります。「そんなのあたりまえだろ、水たまりに石投げて石が飛んでくるかよ！」と大声で叫んだのは、クラスいちのガキ大将（でも私の仲良しだった）。まったくの正論なのです。田村少年は絶句し、立ちすくむのでした。

すでに四〇年以上も前のことですが、今でもこの出来事を鮮明に覚えています。それは、①大人になってこの出来事を思い出したときに、ものすごく悔しかったからです。II その悔しさは、自分が一生懸命やった自慢の研究の穴を一瞬で見透かされ、「そんなことやっても仕方がない」と言われたこと、に対してではありません。「どうしてあのとき、「じゃあ、石に水を当てたら石が飛んでくるのか？」と言

い返せなかったんだろう」という後悔でした。確かに、当てる物体と当てられる物体の硬さの問題も考える必要があるようです。②自分の研究にも穴はあるが、相手の論理にも穴がある。それらを埋める実験を考えて、さらに試してみるといい。でも、そこまでの論理展開は中一の私にはとっさに考えられなかったのです。石はもちろん油とか砂糖水とかさまざまに硬さの違う物体を水面にぶつけてみると何かわかるかもしれません。ひよっとすると同じ硬さの物体同士だと、考慮すべきは別にあるかもしれない。言い返せなかったことよりも、次の展開を考えつかなかったことへの後悔なのかもしれませんね。

③ 研究ってまさにこういうものです。「あれ、不思議だな、なんでだろう？」と思ったことを自分で確かめてみる。出てきた結果をよく考えて結論を出す。導いた結論を人に話す。別の考え方で言い負かされることもある。Ⅲ 次はこうしてやろうと……。今でも私が研究者でいるのは、この中学校一年生のときの貴重な経験があつて「悔しいけど楽しい。次は何をやってみようか」と考え続けているからなのかもしれません。でも、私のような学者だからこんな特殊なことを考える、というわけではないと思います。「どうして石鹼受けには水がたまるんだらう？」とか「自分が美味しいと思えるゆで卵をゆでるためには、どうしたらいいか？」とか、考えて工夫して実験してみると、楽しいですよ。あなたも今日から実験はじめてみませんか？ むしろ、みんな毎日実験している（ある目的のために工夫している）のに気づいていないだけなんじゃないかしら。

コラム6 未来おおききみへ——考えることの面白さ

(中略)

そして、これまでのコラムで私が伝えたかったのは、自分が考えたことを表現することの楽しさです。漫画も落語も、コラムには出てこなかったが音楽も絵画も、そして科学も、自らが感じた、あるいは考えた内容の表現方法です。自分で考えたことを人に伝えてほめられる（評価される）とうれしいものですが、やはりそもそも考えること自体が楽しい。自分が考えついた面白いことを人に伝えて共有したい、その点において科学と芸術はやはり似ているのかもしれませんが。

「CMのカレースプーンの謎」はもちろん、「ミルククラウンの話」「のび太はどうして電話帳を暗記しようとしたのか？」「華厳の滝を登るウナギ伝説」「親指？ 人差し指？」いずれも、考えることは楽しいものです。自分が面白いと思うことを考えるのはさらに楽しいので、自分が面白いと思うことを見つけるのが大切です。幸いにも④ 表現には勝ち負けがありません。

なので、これなら人に負けないということではなく、これなら考えているだけで楽しいと思える自分なりの面白いことを探し続ける。年齢によって内容は変わるかもしれないし、ずっと変わらないかもしれないので、探し続け、考え続けることになると思います。私は今日も「何を考えると面白いかな、楽しいかな」と考え続けています。みなさんも是非、今はこれが面白い、そう思えるものを探してみてください。Ⅳ そのことについて、自分でよくよく考えましよう。考えているとわからないことが出てくるはずなので、調べてみたり人に聞いてみたりするといいです。人に自分の考えを話してみるだけで、考えがまとまり整理できるものです。調べて話して聞いて、Y 合点がいくとまたさらに考えが広がります。実はこれ、サイエンスの研究の展開そのものでもあります。

(田村宏治『進化の謎をとく発生学——恐竜も鳥エンハンサーを使っていたか』所収のコラムによる)

(注1) CM↷人差し指…出典の本において、別の部分で触れられている謎。

問一 空欄Ⅰ↷Ⅳに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア そして イ ただし ウ だから エ ところが オ ならば

問二 波線部X・Yの言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

X 意気揚々

ア 力をこめて元気いっぱい
イ 得意な気分で誇らしげに
ウ 内心の喜びを態度にも表して
エ はやる気持ちを抑えて
オ よく確認せず軽はずみに

Y 合点がいく

ア 納得する気持ちになる
イ もう一段階深めてみる
ウ 他者と意見を交換する
エ 考えを足し合わせる
オ 許可しようと思う

問三 傍線部①「大人になってこの出来事を思い出したときに、ものすごく悔しかった」とありますが、なぜ「悔しかった」のですか。二十五字以内で説明しなさい。

問四 傍線部②「自分の研究にも穴はあるが、相手の論理にも穴がある」とありますが、この「穴」とは具体的にはどのようなことですか。A・

自分の研究の「穴」、B・相手の論理の「穴」の説明としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 水とインクは実は硬さが違うのだが、その違いまで想定していないこと。

イ 当てる物体は硬くなく、当てられる物体が硬い場合しか想定していないこと。

ウ 石など、水とは硬さの異なる物体を当てる場合を想定していないこと。

エ 水とインクの硬さは同じなのに石だけ硬さが違うなどとは想定していないこと。

オ 同じ硬さの物体同士を当てた場合、硬さ以外に何が影響するか想定していないこと。

カ 当てる物体と当てられる物体の硬さを逆にした場合までは想定していないこと。

問五 傍線部③「研究ってまさにこういうもの」とありますが、どのようなものですか。六十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部④「表現には勝ち負けがありません」とありますが、なぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容の説明として適当なものにはA、不適当なものにはBを、それぞれ解答欄に答えなさい。

ア ミルククラウンのような実験は中学生でもできる簡単なものであり、サイエンスを研究する姿勢などは不必要である。

イ 田村少年の実験には不十分なところがあつたが、当時の体験はその後の彼の研究に対する姿勢に大きな影響を与えた。

ウ 疑問をもち考えて工夫する過程は研究者たちが取り組む専門的な態度であり、一般の人々にとって身近とは言えない。

エ 科学と芸術とは一見すると何の関係もないように見えるが、考えた内容の表現や共有という点でよく似た存在である。

オ 表現の一種である漫画や落語は、ストーリーを踏まえた論理展開があるため実は科学そのものだということが分かる。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 経験がホウフだときつと将来の力になる。
- ② 中国の道徳の考え方ではジンギを大切にすゑる。
- ③ 北海道の路線ではジヨセツシヤが活動している。
- ④ ネフダを確認して買ひ物することが大切だ。
- ⑤ ここまでの勉強が合格にイタる道だ。

[問題はここまです。]

